

令和5年度事業報告書

社会福祉法人日吉たには会

I . 法人運営（法人全般業務）

(1) 理事・監事（令和6年3月31日現在）

- ・理事 定数 7名 現在数 7名
- ・監事 定数 2名 現在数 2名

(2) 評議員（令和6年3月31日現在）

- ・評議員 定数 9名 現在数 9名

(3) 理事会の開催

①令和5年6月8日 出席者 理事 7名 監事 1名

【決議事項】

- ・令和4年度事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認について
- ・理事・監事候補者（案）について
- ・評議員候補者の推薦（案）について
- ・定時評議員会の招集（案）について
- ・評議員選任・解任委員会の招集（案）について

②令和5年6月22日 出席者 理事 7名 監事 2名

【決議事項】

- ・理事長の選任（案）について
- ・業務執行理事の選任及び業務分担（案）について
- ・評議員選任・解任委員会委員の選任（案）について

③令和5年12月18日 出席者 理事 7名 監事 2名

【報告事項】

- ・令和5年度上半期事業報告（事業実施状況・収支状況）
- ・令和5年度介護保険サービス事業者等に対する運営指導の実施結果について

対象事業：老人保健施設はぎの里

老人保健施設はぎの里通所リハビリテーション

はぎの里訪問リハビリテーション事業所

- ・令和5年度社会福祉施設指導監査の実施結果について

対象施設：特別養護老人ホームはぎの里オアシス

④令和6年3月13日 出席者 理事 6名 監事 1名

【決議事項】

- ・令和6年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について
- ・就業規則の一部改正（案）について
- ・給与規程の一部改正（案）について
- ・評議員会の招集（案）について

【報告事項】

- ・令和5年度介護保険サービス事業者等に対する運営指導の実施結果について

対象事業：特別養護老人ホームはぎの里

特別養護老人ホームはぎの里短期入所生活介護

(4) 評議員会の開催

- ①令和5年6月22日 出席者 評議員 8名 監事 2名
理事 4名（理事長・業務執行理事・理事）

【決議事項】

- ・令和4年度事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認について
- ・理事・監事の選任について

- ②令和6年3月26日 出席者 評議員 6名 監事 1名
理事 4名（理事長・業務執行理事）

【決議事項】

- ・令和6年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について

【報告事項】

- ・就業規則及び給与規程の改正内容について
- ・令和5年度介護保険サービス事業者等に対する運営指導の実施結果について

対象事業：老人保健施設はぎの里

老人保健施設はぎの里通所リハビリテーション

はぎの里訪問リハビリテーション事業所

特別養護老人ホームはぎの里

特別養護老人ホームはぎの里短期入所生活介護

(5) 評議員選任・解任委員会の開催

- ①令和5年6月20日 出席者 選任・解任委員 5名（内、外部委員2名）
理事 2名（理事長・業務執行理事）

【決議事項】

- ・評議員の選任（案）について

(6) 監事監査

- ①令和5年5月24日 出席者 監事 2名
・令和4年度法人業務執行状況及び財産状況について
- ②令和5年12月4日 出席者 監事 2名
・令和5年度上半期法人業務執行状況及び財産状況について

(7) 管理者による会議

①管理者会議

- ・理事長、事務局各部長、事業部各マネージャーによる月例会議を開催
- ・法人運営に関する諸課題について検討

②管理職会議

- ・管理職（部長、施設長、副施設長、マネージャー）による月例会議を開催
- ・各施設運営及び職員状況等に関する諸課題について検討

(8) 社会福祉法及び老人福祉法に基づく指導監査

①令和5年度社会福祉法人に対する一般指導監査【南丹市】

実施日：令和6年2月22日

監査対象：法人運営

監査結果：改善を要する事項なし

②令和5年度社会福祉施設指導監査【京都府】

実施日：令和5年11月21日

監査対象：特別養護老人ホームはぎの里オアシス

監査結果：文書による改善報告を求める事項なし

(9) 介護保険法に基づく介護保険サービス事業者等運営指導

①老人保健施設はぎの里（入所）・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション

実施日：令和5年10月12日

指定権者：京都府

指導結果：おおむね適正な運営が行われていると認める

②特別養護老人ホームはぎの里（長期入所・短期入所）

実施日：令和6年2月29日

指定権者：京都府

指導結果：おおむね適正な運営が行われていると認める

(10) 新型コロナウイルス感染症対応

①新規施設ご利用者への抗原検査の実施

・入所（入居）の際に抗原検査を実施

②新型コロナウイルスワクチン接種

6回目接種：令和5年5月下旬から7月上旬

7回目接種：令和5年10月下旬から12月下旬

・特養はぎの里、老健はぎの里、特養オアシスで実施

・接種対象 特養・老健・ケアハウス・グループホームご利用者

職員（法人職員、派遣職員、清掃・厨房委託業者職員）

③職員の感染の状況

令和5年5月	4名	6月	1名	7月	3名	8月	5名	9月	7名
11月	2名	12月	7名	1月	2名	2月	7名	3月	1名
									計39名

④各施設における感染の状況

【令和5年5月】

・老人保健施設はぎの里入所事業

ご利用者8名、職員2名が感染

5月20日～6月4日まで該当フロアの新規入所を中止

【令和5年7月】

・特別養護老人ホームはぎの里長期入所事業

ご利用者1名、職員1名が感染

- ・ケアハウスはぎの里
ご利用者2名が感染

【令和5年8月】

- ・特別養護老人ホームはぎの里長期入所事業
ご利用者7名、職員2名が感染

【令和5年9月】

- ・特別養護老人ホームはぎの里短期入所事業
ご利用者1名が感染
9月2日～3日まで短期入所事業の新規入所を中止
- ・第二ケアハウスはぎの里
ご利用者1名が感染

【令和5年12月】

- ・はぎの里デイサービスセンター
ご利用者4名、職員4名が感染
12月15日～17日までデイサービス休業
- ・ケアハウスはぎの里
ご利用者1名、職員1名が感染
- ・第二ケアハウスはぎの里
ご利用者6名が感染

【令和6年2月】

- ・特別養護老人ホームはぎの里短期入所事業
ご利用者3名、職員1名が感染
- ・ケアハウスはぎの里
ご利用者1名が感染
- ・特別養護老人ホームはぎの里オアシス
ご利用者6名、職員1名が感染

(1 1) 介護事故

- ・令和5年度 介護事故件数 30件（令和4年度 44件）
内訳：骨折10件、服薬関係7件、外傷6件、送迎中の事故3件、
離脱1件、その他3件

(1 2) 南丹市介護相談員による相談事業

令和5年度も新型コロナウイルス感染症感染防止対策として受け入れ中止

(1 3) 京都府・南丹市等から依頼のあった委員会等への参画

- *南丹市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
- *南丹市地域福祉計画推進委員会
- *南丹市民生児童委員推薦会及び南丹市民生児童委員推薦会日吉準備会
- *南丹市高齢者虐待防止ネットワーク会議
- *南丹市介護認定審査会

(14) 地域貢献としての日吉町田原地域における事業の在り方についての検討

小規模多機能型事業のはぎの里ふれあいホームは既存木造建物を改修して運営していますが老朽化も進んでおり、今後事業継続するには大規模な改修もしくは建て替えが必要となります。

そのような中で、南丹市より田原地域の南丹市立興風保育所の既存建物を高齢者介護事業所として活用できないかとの相談がありました。また、日吉町興風地区住民からも南丹市に対して興風保育所建物を介護事業所として活用してほしいとの要望が出されました。

それらを受けて、上半期に実際に建物の現地確認を行い、法人として活用の可能性についての検討を行いました。

実際に興風保育所を活用して事業を実施するには、事業スペースの改修以外に屋根や防水工事等の修繕が必要な状態であり、南丹市の支援なしには実施は難しい状況です。

そのため、事業を実施するにあたっては、長期にわたり採算性のある事業を選択して実施することで、安定的な運営を目指す必要があります。

これらを踏まえて、令和6年度には、現在の小規模多機能型事業にとらわれず、地域ニーズを踏まえて当法人として長期的な経営が可能と見込める事業を精査して、事業実施の可否について南丹市と具体的な協議を行う計画です。

II. 法人本部事務局

1. 総務部

(1) 人材確保の取り組み

①令和5年度採用・退職数

採用 正職員6名 准職員8名 臨時職員21名
退職 正職員10名 准職員7名 臨時職員14名
正職員任用 4名

②レンタル人事サービスの活用

令和5年11月～令和6年4月の6カ月間の採用代行業務
求人サイト掲載求人情報の作成、掲載求人サイトの選定、スカウト送信、応募者対応
・運用求人サイト【無料媒体：5媒体・有料媒体（採用時課金）：6媒体】
・実績【スカウト送信：1,762通・応募数：13件・面接：6件・採用5件】

③新卒採用活動

新卒求人サイト「あさがくナビ2024」による採用・スカウト活動、イベント参加
・令和5年5月25日 あさがく就職博京都会場（医療・福祉特集）
・令和6年2月26日 京都福祉フェス就活meeting（令和7年採用者向）

採用者なし

④高校生求人活動

令和5年7月 南丹地域の高等学校に求人票送付
応募者無し

⑤職員確保協力報奨金制度

令和5年7月20日～令和6年3月31日
採用者2名（令和5年10月1日付・介護職・臨時職員2名）

⑥南丹エリア福祉就職説明会（事務局：京都府福祉人材・研修センター）

令和5年10月21日 京都産業会館ホール

採用者無し

⑦福祉職場就職面接会（ハローワーク園部主催）

令和5年10月30日 ハローワーク園部

採用者1名（令和6年1月1日付・相談職・正職員）

⑧南丹市福祉職場就職フェア（南丹市主催）

令和5年12月9日 南丹市国際交流会館コスモホール

採用者無し

⑨FUKUSHI就職フェア京都丹波（事務局：京都府南丹保健所）

（京都丹波福祉職場応援プロジェクト促進会議）

令和6年1月13日 ガレリアかめおかコンベンションホール

採用者無し

（2）人材定着の取り組み

①異動意向調査の実施

第1回：令和5年6月20日～6月30日

第2回：令和5年12月9日～12月22日

②定年退職者及び有期雇用職員に対する雇用継続意向調査の実施

令和5年12月20日～令和6年1月9日

（3）永年勤続表彰の実施【令和5年7月10日】

10年勤続者 7名（感謝状・金一封の贈呈）

20年勤続者 7名（感謝状・金一封の贈呈）

（4）職員の処遇改善の取り組み

①介護職員処遇改善加算

対象職員 介護職員

加算総額 49,199,080円

改善内容 基本給・職務手当・役職手当の昇給原資

令和5年度正職員平均昇給額 4,417円（昇給率1.81%）

令和5年度准職員・臨時職員 最低時間給1,010円（40円昇給）

②介護職員等特定処遇改善加算

対象職員 介護職員及び年収440万円未満のその他の職種職員

加算総額 17,432,060円

改善内容 一時金として支給（令和5年9月・令和6年1月・5月の3回に分割）

経験・技能のある介護職員 192,000円～219,000円

他の介護職員 114,000円～191,000円

その他の職種 52,000円～88,000円

③介護職員等ベースアップ等支援加算

対象職員 介護職員及び管理職及び宿直職員を除く全てのその他の職種職員

加算総額 9,348,660円

改善内容 令和5年4月～令和6年3月勤務実績に基づく処遇改善手当支給
正職員・嘱託職員 月額5,600円
准職員・臨時職員 月間勤務時間数×35円

(5) 職員の健康管理

①職員健康診断・頸肩腕腰痛症健診1回目

- ・令和5年8月23日～25日（23日、24日は日吉、25日はオアシス）
- ・職員健康診断 受診者129名 要再精検者48名
- ・頸肩腕障害腰痛健診 受診者88名 有所見者 4名

②夜勤従事者健康診断・頸肩腕腰痛症健診2回目

- ・令和6年2月19日～20日（19日、20日午前は日吉、20日午後はオアシス）
- ・夜勤従事者健康診断 受診者45名 要再精検者13名
- ・頸肩腕障害腰痛健診 受診者97名 有所見者 4名

③ストレスチェックの実施

実施期間 令和5年11月6日～11月17日
実施者数 170名 高ストレス者 20名（11.7%）

(6) 衛生委員会の開催

毎月開催 各回テーマを決めて検討 職員の時間外勤務状況等も確認

2. 経理部

(1) 安定した収支に向けた取り組み

毎月経理部会議を開催し、その中で収支状況の確認と近年の物価高騰による光熱費及び食材・介護用品費等の値上げ状況を確認し前年度との比較を行い、それらの結果を管理者会議・管理職会議で報告し、法人全体での節約に取り組みました。

また、毎月の会計事務所による監査の報告書を確認後、管理職へ回覧を行いました。

(2) 令和5年度の収支

収入では、介護保険事業収入の減収と新型コロナウイルス感染症によるクラスター及び物価高騰による値上げの影響を多少受けた結果、補助金及び助成金も活用しましたが、減収となりました。

支出では、設備改修等による固定資産取得支出が目立ちました。

(3) 補助金・助成金申請

- 新型コロナウイルス感染症流行下における介護サービス提供体制確保事業
（新型コロナウイルス感染症クラスターによる施設内療養費）
- 京都府医療機関・社会福祉施設等経営改善支援事業補助金
（エアコン購入に対する補助金）
- 京都府及び南丹市・物価高騰対策支援事業（光熱費及び燃料費に対する助成金）

(4) 各保険の見直し、更新

9月 自動車保険更新（公用車 22台）

3月 他、継続が必要な保険の更新

（雇用管理賠償責任保険、役員賠償・医師・看護師賠償責任保険

業務災害総合保険、事業活動総合保険介護保険・社会福祉事業者総合保険）

3. 企画部企画課

(1) 法人主催行事

①はぎの里敬老祝賀式

9月22日 第二ケアハウスはぎの里ホール会場

祝賀対象41名 参加15名

新型コロナウイルス感染予防のため代表者の参加で実施

来賓 南丹広域振興局副局長・南丹市長・南丹市社会福祉協議会事務局長・

南丹市高齢福祉課長

次第 祝品贈呈（新百歳3名・白寿3名・卒寿5名・米寿4名）と祝辞、記念撮影

②はぎの里秋祭り中止

地域住民との交流を目的とした大規模行事は、感染リスクが高いため中止

後援会からは、全会員へ中止のお知らせをはがきで行う。

(2) 地域貢献

①おれんじスポットひよし（認知症カフェ）企画送迎協力

関係機関実行委員会形式、奇数月1回の送迎

場所 いきいきオアシス日吉コミュニティルーム・ひよしダム・MIYABI

えんがわカフェなずな

少人数制とし、1回2～3名を対象に開催

②興風交流センターデイサービス事業企画送迎協力〔通称 田原なごみ会〕

（南丹市人権政策課・南丹市社協・はぎの里）

南丹市社協と役割分担し、迎えのみ月2回実施 毎月第1第3木曜

1回の迎えは、3～5名

6月15日送迎15名・アルプラザでボウリング

9月21日送迎12名・道の駅「味夢の里」で社会見学

③「まちカフェサロン」まちカフェモーニングの会送迎協力（胡麻地域対象）

毎月第2日曜 1回の送迎は、5～7名程度

4月 花見ドライブ29名送迎

7月8月1月 送迎なし

④「ごまデイ」胡麻地域まちづくり協議会送迎協力

5月 お出かけ・味夢の里 11名

⑤「新町いきいきサロン」送迎協力

7月 外食と買い物お出かけ（八光亭・味夢の里）18名

⑥地域清掃活動

- ・特養正門前～遊 you ひよし間の歩道及び車道のゴミ拾い（毎月）
実施者 特別養護老人ホームはぎの里・老人保健施設はぎの里・
ケアハウスはぎの里・はぎの里ケアプランセンター 各職員
- ・横田区環境美化作業に参加（4月・8月・3月）
参加者 オアシス職員

⑦田原夕涼み会

- ・8月19日 実行委員協力

⑧殿田中学校1年生認知症勉強会・交流会（老人保健施設通所リハビリテーション）

- ・10月23日 認知症勉強会 職員が講師として学校訪問 生徒31名
- ・12月22日 通所リハビリテーションでの交流会 生徒6名

⑨園部小学校オンライン施設見学・交流会（オアシス）

- ・2年生見学
9月21日 オアシス多目的室と特養オアシスをつなぐ 児童15名来所
- ・4年生交流
11月30日 学校と特養オアシスをつなぐ 児童30名
(オレンジガーデニングプロジェクト)

(3) 令和5年度介護福祉士実務者研修通信通学課程（主催 三幸福祉カレッジ）

会場 南丹市国際交流会館 修了1名
主催者による受講料の法人割引適用
介護福祉士合格者1名（本研修修了者外）

(4) はぎの里後援会事務局として

- 5月15日 監事監査・三役役員会
- 6月24日 地域担当幹事会
- 8月1日 総会 書面議決
新型コロナウイルス感染症予防のため総会を書面決議とし全議案が承認されました
 - ・令和4年度 事業報告及び会計決算報告
 - ・令和5年度 事業計画（案）及び会計予算書（案）
- 1月29日 三役役員会
- 3月27日 法人への備品提供支援 センサーマット3台

(5) BCP完成（事業継続計画）

6月～完成に向けて、災害と感染症の2チームに分け、同時進行で作成しました。
次年度からは、研修及び訓練の義務付けとなります。

4. 企画部介護保険課

(1) 京都府による老人保健施設無料低額調査

5月17日現地調査を受けました。決定者数11名

(2) 資格研修修了状況

- ・令和5年度京都府介護支援専門員更新研修
課程Ⅱ 修了4名（老健1名・グループホーム2名・小多機1名）
主任 修了2名（ケアプランセンター）
- ・令和5年度京都府認知症介護実践者研修（人員要件研修）
修了3名（グループホーム・老健・特養オアシス各1名）
- ・令和5年度ユニットリーダー研修（人員要件研修）
修了2名（特養・特養オアシス各1名）
- ・令和5年度京都府小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修（人員要件研修）
修了1名（ふれあいホーム）
- ・令和5年度京都府認知症介護基礎研修（無資格者の法定研修）
修了3名（特養オアシス・グループホーム・ふれあいホーム）

(3) 介護保険事業集団指導

- ・令和5年度京都府介護保険サービス事業者等に係る集団指導
新型コロナウイルス感染防止のため京都府ホームページでの動画配信及び資料掲載による開催
対象事業 老健・通所リハビリ・訪問リハビリ・訪問介護・特養
- ・令和5年度南丹市内地域密着型サービス事業所集団指導
8月24日 場所 南丹市文化会館「アスエルそのべ」
- ・令和5年度南丹市内居宅介護支援事業所集団指導
8月24日 場所 南丹市文化会館「アスエルそのべ」

(4) 介護保険事業指定更新3月31日

- ・はぎの里デイサービスセンター（第1号通所事業）南丹市指定
- ・はぎの里訪問介護事業所（第1号訪問事業）南丹市指定
- ・特別養護老人ホームはぎの里（介護予防短期入所）京都府指定

(5) 介護保険事業・介護保険外利用料改定（原価高騰による）

食事代・おやつ代・光熱水費・洗濯代・宿泊費・電気代を改定

Ⅲ. 事業部技術専門室

1. 介護部

(1) 介護職員としての知識技術向上

感染症の影響により、全体研修会や各事業所における研修会への相互参加は実施できませんでした。その代替として、毎月開催している介護部会議内において、介護技術における勉強会を実施する予定でしたが、コロナクラスターや職員不足により実施することが出来ませんでした。

(2) 各種関係機関との連携による人材確保により、効果的な介護職員の採用

インターネット媒体での求人や知人の紹介等により幅広く視野を広げた求人活動を行いました。また、下半期からは採用代行業者を導入しインターネット媒体を有効活用することにより、フルタイム職員数名の獲得に至りました。

(3) 離職防止・働き方改革への対応

毎月、各事業所チーフ（1号館・2号館・オアシス各担当）3名、マネージャー、計4名にて人員状況の情報共有とともに、人事に関する検討会議を実施しました。管理職会議と連携し法人内での人員体制を把握し、効率的な人員配置をおこなうよう、人事異動や兼務を実施しました。

2. 看護部

(1) 人材確保、定着に向けた取り組み

看護協会、人材紹介業者と連携して人材確保に取り組みました。慢性的な看護師不足や働き方が変化する中、常勤看護師の確保、事業所に必要な勤務時間に応じた採用には苦慮しましたが基準人員の確保はできました。さらに、職場環境を整えチーム力を強化することで定着に向け取り組みました。

各事業所のリーダー配置が課題となりますが、人材の確保、育成に向けて取り組みます。

(2) 研修会の開催

高齢化が進む中、利用者の多様な健康ニーズに対応するためには、幅広い専門的な知識、技術の習得が求められます。新型コロナウイルス感染症の影響が続き自主的な学習にとどまっていますが感染状況を把握して実施に取り組みます。

3. 相談支援部

(1) サービスの質の向上

今年度は指導職会議を定期的開催し各事業所の状況把握や課題を確認し合いました。そのような中、相談支援部の入替り等でやや希薄になった横の繋がりを改めて構築する場を設けることにしました。グループワーク形式で相談援助職として抱える課題や悩みを話し合いました。今回は指導職がファシリテーターを担いメンバーの意見を引き出すように努めました。メンバーからは、家族との信頼関係の構築、事業所間の情報共有の在り方等々、多岐に渡る意見があり活発な意見交換ができました。今後もメンバー間で学びを深めたり、気づきを得たり悩みを共有することで専門職としての質を高めていきたいと考えます。

(2) 効率的な運営について

相談支援部の運営としては、令和3年度に作成した『施設サービス共通申込書』を活用し、申込にかかるご利用者、ご家族の負担軽減や切れ目ない支援への足掛かりに少しは効果があったかと感じています。

一方で、施設申込みが減少傾向にあり、今年度は、法人サービスの周知等を目的に相

談支援部メンバーの顔写真を掲載したリーフレットを作成し関係機関等に配布させていただきました。リーフレットは概ね高評価をいただき、今後も適宜見直し活用することで効率的な運営に貢献できればと考えています。

4. 研修担当部

(1) 法人職員基礎（新人）研修

第1回 4月3日・5月8日の2日間 受講者4名

第2回 11月7日・12月5日の2日間 受講者5名

(令和4年度中途採用者も含む)

研修内容 法人の概要及び組織・理念・方針 他11講義

(2) 指導職対象研修

インターネット研修「チーム及び組織力向上研修」

チームワークにおけるリーダーの役割と成果に結びつける視点及び取り組み

変化を受け入れない本質とチームメンバーを育てるために

研修期間 6月1日～3月31日 受講者15名

(3) 中堅職員研修（対象 5年以上の経験）

インターネット研修・介護従事者の「気づき」の力を高める研修

研修期間 10月1日～3月31日 受講者7名

(4) 虐待防止研修（オンライン研修）

3月18日 2拠点で実施 受講者26名

研修テーマ 虐待防止と職員のストレス軽減について

講師 京都保育福祉専門学院 副学院長 岡本匡弘氏

(5) 認知症研修

認知症介護実践者研修修了者の活動の場として、認知症研修の計画から実施までを担当する。

内容 インターネット研修 2月～3月

①認知症の人が安心する事例集【入浴拒否】誘う前から入浴を嫌がる

各事業所で実施 受講者62名

②暮らしの障害とその支援・専門職が押さえておくべき実践のポイント

1施設で実施 受講者18名

(6) インターネット配信研修（お茶の水ケアサービス学院・ユーチューブ他）

各事業所単位の研修計画を立て受講しました。

4月20名、5月39名、6月26名、7月6名、8月42名、9月1名

10月48名、11月20名、12月0名、1月57名、2月28名、3月26名

※お茶の水ケアサービス学院研修は下記講義から選択しています。

専門研修フルバージョン157講義

15分研修シリーズ145講義（フルバージョンの一部）
30分研修シリーズ168講義・介護塾45講義
アーカイブ配信研修110講義

（7）資格取得支援

①介護支援専門員実務研修受講試験対策勉強会

参加者5名 全7回で4月～10月 月1回開催

②介護福祉士受験対策

受験者個別対応で、希望者には参考書・受験対策講座幹旋など
対象 2名（概数）

（8）研修担当部会議 月1回開催

①年間研修計画の策定検討について

②令和5年度法人内事業所単位研修会（勉強会）年間計画【予定】を配布
研修計画の共有により、事業所間で相互に受講できる仕組み

③新規採用者対象法人基礎研修の実施について

④指導職対象研修について・中堅職員対象研修について

⑤虐待防止研修について・認知症介護基礎研修の計画的受講について

⑥認知症介護実践者研修の計画的受講について

⑦介護支援専門員実務研修受講試験対策勉強会について

⑧外部研修案内の周知について

⑨認知症ケア研修について

認知症介護実践者研修修了者の活躍の場として、修了者による研修計画中

⑩法人内事業所サービス評価計画 各事業所6カ月毎の評価

⑪きょうと福祉人材育成認証制度について

（9）サービス評価の継続実施について

- ・法人の理念に始まり、職員倫理綱領に基づいた各事業のサービスが提供されているかを確認し、定期的に利用者サービスが適切かを意識した運営となるよう組織的に取り組む。
- ・評価委員は、管理職・指導職・総合職の3名体制とし、評価対象事業所属以外で選任する。
- ・評価方法は、サービス評価チェックリストに基づくヒアリング・根拠資料・記録などの確認を行い、結果に委員コメントを記載し、今後に活かす。

実施回数 原則6カ月毎

第1回 6月16日 対象事業所 日吉特養

第2回 10月20日 対象事業所 老健

第3回 12月14日 対象事業所 特養オアシス・グループホーム

第4回 2月 8日 対象事業所 ケアハウス・第二ケアハウス

第5回 3月19日 対象事業所 通所リハビリ・訪問介護

人員体制から全事業所の実施には至らなかった。

IV. 特別養護老人ホームの経営

(1) 利用実績

①指定介護老人福祉施設（長期入所）定員50名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	44.9	43.2	43.9	44.2	45.6	44.8	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	44.5	44.8	45.0	43.3	46.3	44.9	44.5

②短期入所者生活介護（ショートステイ）定員10名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数	285	301	269	288	267	262	
1日平均利用者数	9.5	9.7	9.0	9.3	8.6	8.7	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用者数	319	317	282	302	270	258	1,748
1日平均利用者数	10.3	10.6	9.1	9.7	9.6	8.3	9.6

③長期入退所状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	3	5		8	2		
退所先		4				14	

(2) 実習・その他受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

今年度は、基本的な感染症対策を継続する中、職員体制も厳しい中での施設運営となりましたが、日々の介護においては、介護計画をもとに、多職種が連携し入所者それぞれに合った介護の提供に、取り組みました。

特に、必要に応じた入浴の機会の確保（清潔保持）や、定期的なミールラウンドの実施、入所者の状態に合わせた食事形態や補助食品の提供を行いました。

感染症対策として、職員はマスクを着用しての対応となる為、上手く意思疎通が図れない場面がありました。

機能訓練では、各専門職と連携しながら、個別計画をもとに、食事や車いす使用時のポジショニング、平行棒リハビリなどを実施しました。

年間を通じ、感染症（新型コロナ）の影響を受ける事がありましたが、陽性者発生時

の対応が円滑に行えるようになった事と、生活空間が10名前後のユニットで分かれており、また個室である事から感染拡大は最小限に抑える事が出来ました。

面会は、今年度も、決められた場所・時間内での面会となりましたが、直接顔を見て頂ける機会を設ける事ができました。ご家族に生活の様子をお伝えるお便りは、予定通り実施する事が出来ませんでした。次年度は定期的に作成出来るよう計画します。

(5) 安定した収入確保

令和5年度の利用実績は、1日平均54.1名(長期入所44.5名、短期入所9.6名)・90.1%で、目標(1日平均58名・稼働率96%)は未達成となりました。

近年、待機者の減少と入所期間が短い傾向となっており、収入確保に向けては、待機者の確保とベッドコントロールをリアルタイムに行う必要があります。

また、令和5年は、入院による空床が目立ちました。目標としていた収入が確保できない中、高額な備品購入や、空調機器等への支出があり、今後も更新が必要な備品の故障が続くと考えられます。修繕への備えの為に、次年度以降の重点課題として、早急に改善に取り組みます。

支出では、更新が必要な備品への支出が中心となりました。

(6) 職員の資質向上

令和5年度も、職員会議の中で年間計画をもとに研修会を行いました。

特に頻繁に対応の変更が生じた感染症については、1号館全事業所で集まり、知識や対応を共有した他、外部研修へ参加しました。

インターネット研修も活用し、職員個人や会議で視聴しています。

機能訓練指導員は、法人リハビリテーション部の連携の一つとして、学びを目的とした法人内他事業所へ出向く機会がありました。特養でのケースを相談する事ができ、特養内での機能訓練の充実につながっています。

現在外部からの訪問者がいない中、居室内の整理整頓や接遇の確認を行いました。

また、京都府による運営指導を受けるにあたり、令和6年2月までに、施設運営に必須である記録や加算算定要件の総点検を行いました。

(7) 地域貢献

令和5年は、特別養護老人ホームでの介護相談員・ボランティア、実習生の受け入れはありませんでした。

V. 老人保健施設の経営

(1) 利用実績

①介護老人保健施設（長期入所）定員100名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	86.5	86.2	84.5	85.1	86.2	88.2	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	88.0	88.1	87.2	86.3	86.0	88.0	86.7

②短期入所療養介護(ショートステイ)長期空床型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数	32	36	91	44	34	26	
1日平均利用者数	1.1	1.2	3.0	1.4	1.1	0.9	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用者数	30	26	35	22	35	56	467
1日平均利用者数	1.0	0.9	1.1	0.7	1.2	1.8	1.3

③長期入退所状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	15	56					
退所先	9	37	22		1		

(2) 実習・その他受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

新型コロナウイルス感染症の影響により、5月中旬から6月上旬においてクラスターが発生しましたが、重症化や入院される方なく収束することが出来ました。

面会や行事を制限する必要があり、ご利用者の生活に大きな支障をきたしました。その中で、出来る限りご利用者やご家族の声を傾聴して生活支援を行いました。面会のご希望に対しては、オンライン面会や1階に面会スペースを設置して対面面会を実施しました。日々の様子や体調の変化は、2か月に1回近況報告の書面を作成し定期的にご家族へ報告しました。

介護の取り組みとしては、花の苗植え・野菜作り・七夕飾り・夏祭り・敬老祝賀会等の行事を実施しました。また、各フロアにおいて、接遇に関する取り組みを実施し、言葉使いや身だしなみのケアに関して見直す機会を設けることができました。

医療の取り組みとしては、入所受入時の抗原定性検査の実施や日常における感染対策の徹底、日々、ご利用者の観察を意識的に行い情報共有することで体調の変化に気づき、早期の対応ができるようチームで取り組みました。感染症発生時のご利用者の体調観察を徹底し、重症化予防に努めました。

リハビリの取り組みとしては、ご利用者の「できること」を磨いたり、増やすことができるように、ご利用者個々の目標や日常生活の様子を踏まえた上で、堅実なアプローチを行うことができました。また多職種との協働も密に行い、ご利用者個々の能力を発揮できる環境作りや安全面を考慮した環境作りを行うことができました。短期集中リハビリテーション加算については、週4回介入し、在宅復帰に繋げることができた症例もありました。さらにメリハリのある充実した日常生活にするため、体操や作業活動に積極的に取り組みました。一般棟ではカラオケ機器を導入し、体操の種類や難易度など幅広い内容で実施することができました。専門棟ではご利用者を身体能力別にグループに分け、それぞれのグループに応じた体操を実施することができました。介護職員とも連携し、役割分担しながら取り組むことができました。

栄養の取り組みとしては、地元の米や野菜を使用し季節感のある食事の提供に努めました。物価が高騰する中、出来るだけ食事の質を落とさない様、工夫を凝らしながらの食事提供に努めました。また、食事の観察や多職種との情報交換を実施し、ご利用者の栄養状態、嚥下状態、嗜好などを踏まえた食事の調整を行いました。

(5) 安定した収入の確保

令和5年度の利用実績は、長期短期合わせ1日平均88名（前年度比-3.0名）で目標（95名）を達成することが出来ませんでした。要因としては、体調不良による入院者の増加やご利用者のコロナ感染による新規受け入れの中止が一定期間あり、厳しい結果となりました。短期入所療養介護については、1日平均1.3名（前年度比+0.9名）の利用があり、昨年度に比べご利用者を一定数確保することが出来ました。

また、本来の老健の役割である在宅復帰に向けた取り組みは、在宅復帰・在宅療養支援機能に対する点数が、40点以上確保することができ、6月からは在宅復帰・在宅療養支援機能加算（1ヶ月約90万円収入増）の算定を開始しました。加算算定を継続していくために、在宅復帰者の確保、入所退所件数等の確保に努めました。

(6) 職員の資質向上

今年度は少しでも多くの職員の研修機会が確保できるように職員会議を2部制で開催しました。結果としては参加者の増加は見られませんでした。欠席者も動画を視聴してレポートを提出することで学ぶ機会を確保しました。また12月～2月の昼休憩を活用した研修会「ランチョンセミナー」を開催しました。休憩時間の開催であったため参加者数はわずかでしたが、参加者からは気軽に時間の有効活用ができたなど好評でした。

(7) 地域貢献

地域貢献による取り組みとして、施設周辺の清掃活動をボランティアで9回実施しました。

VI. ケアハウスの経営

(1) 利用実績

①ケアハウス入居状況 定員25名（1人居室11室・2人居室7室）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月初入所者数	22	21	21	20	20	21	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初入所者数	22	22	22	22	21	21	255

②ケアハウス入退居状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	2	1					
退所先			3			2	

③第二ケアハウス入居状況 定員32名（1人居室26室・2人居室3室）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月初入所者数	29	29	29	29	29	26	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初入所者数	27	28	28	27	26	27	334

④第二ケアハウス入退居状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	4	1	1	1			
退所先		3	2	1		1	1

(2) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) 安心して自立生活できる“住まい”としてのケアハウス

目配り、気配り、心配りで、日常の関わりからご利用者の体調把握に務めました。早め早めの対応を心掛け、ご家族との連携にも努めました。ご利用者の超高齢化、介護の重度化がみられるため担当ケアマネジャーとの連携を強化して、状況に応じた介護サービスの調整をご利用者・ご家族の意向も踏まえて行いました。

また、“自活力”（自立して生活できる能力）の維持のため、ご自身のことはご自身でできるように声掛けを継続し、そのような声掛けをする理由の丁寧な説明に取り組みました。

心身ともに介護が必要となっておられるご利用者に対し、次の居場所に向けての相談支援を行なうと同時に、身体介護（排泄対応、入浴対応、食事対応）も行ない、日々の生活を支援するケースもありました。

ご利用者の平均年齢が上がり、医療ニーズも高まっており、今後も目配り、気配り、心配りを基にした気付きで医療連携も強化していきます。

(4) サービスの質

言葉遣いやご利用者に対する態度が適切かどうか、虐待及び身体拘束等防止の観点から月1回のケアハウス会議での振り返りを継続しました。“自活力”の維持を目標とした声掛け支援を行なうことで、ご利用者に対して威圧的に感じられる可能性が高まることから、日常の言葉遣いについて、職員個々が細心の注意を払うように努めました。

職員同士での意見交換を行ない、ご利用者のケアハウスでの暮らしが支えられるように努めました。職員一人で勤務する時間が多いため、気付きを共有できるように引き続き意見交換を重視し、サービスの質の向上に努めていきたいと考えます。

(5) 安定した収入の確保

ご利用者のケアハウスでの様子をご家族にお伝えするケアハウス通信を年間計画通りに発行し、情報の発信に努めました。

入居相談の経路としては、担当ケアマネジャー、病院の地域連携室からの紹介、法人内事業所からの紹介が多くを占めています。入居待機者の確保のために、入居相談には丁寧に応じるように努め、必要な情報収集を行ない、どのようにすればご入居後に安心した生活を過ごしていただけるのかの視点で取り組みました。

ケアハウスは満室ですが第二ケアハウスに空室が2室ある状況です。今後も、空室が出て来ると見込まれるため、早期の入居につなげられるように努めていきます。

(6) 職員の資質向上

インターネット配信を活用した研修をケアハウス会議に合わせて取り組み、資質向上に努めました。

(7) 地域貢献

南丹市内に縁のある新規入居ご希望者に対しては、可能な限りご入居いただけるよう関係機関と調整を行い、積極的な受け入れを行ないました。

施設周辺の清掃活動をボランティアで9回実施しました。

Ⅶ. 在宅関係事業

1. 通所リハビリテーション

(1) 利用実績 利用定員30名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	590	642	641	611	577	618	
1日平均	23.6	23.8	24.7	23.5	21.4	23.8	
稼働率(%)	78.7	79.3	82.2	78.3	71.2	79.2	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	621	643	603	541	592	602	7281
1日平均	23.9	24.7	23.2	22.5	23.7	23.2	23.5
稼働率(%)	79.6	82.4	77.3	75.1	78.9	77.2	78.2

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
明治国際医療大学 看護学部	令和5年7月～9月	37名
明治国際医療大学 柔道整復学科	令和5年8月～9月	47名
明治国際医療大学 鍼灸学部	令和5年8月～9月	9名
		93名

(3) ボランティア等受け入れ状況

名 称	活動内容	月 日	延べ人数
殿田中学校1年生	認知症勉強会・交流会	12月22日	6名
			6名

(4) サービスの質

新型コロナウイルス感染症の影響で運営内容に制限がありましたが、ご利用者に安心して楽しんでいただける内容を日々検討し取り組みました。

外出を伴う「誕生日会」や「外食会」が実施できないため、誕生日会は施設内でケーキの提供を行い、手作りの色紙と記念撮影を行い、皆さんと一緒にお祝いをしました。外食会の代替としてお弁当を注文し、普段と違った雰囲気を味わっていただきました。

レクリエーションについては、感染症防止対策として、ご利用者同士が一定の距離を保った状態で実施しました。カラオケ機器(DAM)のレクリエーションや体操を活用し、ご利用者満足に努めました。新たな取り組みとして、オンラインレクリエーションを活用し、普段と違うレクリエーションを取り入れ好評でした。ご利用者ご家族の声に耳を傾け、安心してご利用いただけるようにサービスの改善に努めました。

また、サービス担当者会議や、退院時カンファレンスに積極的に参加し、ご利用者、ご家族、担当ケアマネジャーとの情報交換や交流を図り信頼関係の構築に努めました。

(5) 安定した収入の確保

感染症による影響や、体調不良、自己都合での欠席、入院者の増加等により、1年間の平均稼働率は78.2%（一日平均23.5名）となり、目標稼働率（83%・一日平均25名）には届きませんでした。

各事業所のケアマネジャーに利用空き情報を積極的に伝え、新規利用者の獲得や増回、臨時利用の促しを行い、稼働率の安定及びご利用者の継続した利用に繋げました。

コスト削減については、節電や節水、ペーパーレスに取り組みました。

(6) 職員の資質向上

感染症予防対策と会議の参加機会の確保を目的に昨年度と同様に老健会議を二部構成とし、月1回の研修を実施しました。研修内容は、中央法規出版動画配信サイトの動画を活用しました。当日参加できなかった職員についても同様の動画を視聴できる環境を整え、多数の職員が学びの機会を得ることができました。9月には外部講師を招きメンタルヘルス研修を開催しました。

スタッフ会議を毎月開催し、職員間の情報交換、検討事項、共有すべき内容を確認し、資質向上に努めました。

(7) 地域貢献

明治国際医療大学の実習を93名受け入れました。また、殿田中学校へ職員を派遣し認知症の勉強会を開催すると共に生徒数名が事業所へ来苑し交流会を開催しました。

2. 訪問リハビリテーション

(1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用実人数	6	7	7	9	10	11	
介護給付	3	4	5	8	8	9	
介護予防	3	3	2	1	2	2	
訪問延回数	24	31	31	39	41	44	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
利用実人数	11	11	12	12	12	11	119
介護給付	9	9	9	9	8	8	89
介護予防	2	2	3	3	4	3	30
訪問延回数	51	48	35	42	39	37	462

(2) サービスの質

利用者満足度調査によるとサービス内容については概ね満足頂いているようですが、増回を希望される意見がみられました。現状の人員体制において、可能な限り増回に対応していますが、新規利用も含め、ご希望に対して2～3カ月待機いただくこともありました。迅速な調整ができるように努めます。

(3) 安定した収入の確保

昨年度と比較して、利用実人数は2倍、訪問延べ回数は1.5倍となりました。新年度の体制見直しから7月には登録件数も目標人数に到達し、平均9.9人の登録となりました。ご利用者の入院や、感染症での訪問中止に伴い、訪問回数が減少した月もありましたが、下半期以降は安定した運営ができました。また、訪問の終了に向けて、デイサービスやデイケアと連携し、通所サービスの利用に繋がられるように努めました。

(4) 職員の資質向上

老健主催の施設内研修、法人研修およびインターネット研修に参加し、知識向上に努めました。また、法人主催の研修会にも参加し、知識の向上、関係各所との交流、意見交換を行うことができました。

(5) 地域貢献

在宅での生活を継続できるよう、ご利用者の身体機能だけでなく、介護者のケアも含めて総合的に援助できるように心がけました。今後も住み慣れた地域で生活が続けられるように支援したいと考えます。

3. 訪問介護事業

(1) 訪問介護事業利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用実人数	19	21	21	22	19	22	
訪問延回数	97	114	126	121	127	135	
介護給付	44	58	67	67	66	76	
介護予防	53	56	59	54	61	59	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
利用実人数	21	20	21	21	22	21	250
訪問延回数	140	139	131	141	153	145	1,569
介護給付	86	101	87	92	104	101	949
介護予防	54	38	44	49	49	44	620

(2) サービスの質

少人数の体制でケアハウス中心にサービス提供が円滑に効率よくできるように日々努力しています。ご利用者の予定に応じて、訪問曜日や時間の変更等の調整をさせて頂く事でご協力頂き、少人数体制で事業運営が出来る様努めています。

また、ご利用者の生活様式や身体状況を十分に把握することに努め、必要時には担当ケアマネジャーにケアプラン内容の変更を提案する等、ご利用者の自立支援に努めています。

職員の資質向上が直接サービスに影響するため、学びを継続しつつ、ご利用者へは親切・丁寧なサービス提供ができるように今後も努めていきます。

(3) 安定した収入の確保

常勤職員と他事業所との兼務の職員で、合計勤務時間400時間、常勤換算2.5名を毎月確保して運営しています。

効率的な事業運営に努め、今後も業績が向上するように努力していきます。

(4) 職員の資質向上

コロナ禍により研修機会が制限される中、ヘルパー会議での討議や、法人のインターネット研修を利用する事で各職員の知識・介護技術の向上に努めていますが、十分な成果を上げることはできていない状況です。

報告・連絡・相談をしっかり行い、職員間に情報や技術の差が生じないように努めていきます。

(5) 地域貢献

住み慣れた居場所でその人らしい在宅生活が維持出来る様に、各機関と十分に連携を取りながら、今後も質の高い訪問介護サービスを提供していきます。

4. 居宅介護支援事業(はぎの里ケアプランセンター)

(1) 年間計画作成件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
居宅介護支援件数	75	74	85	83	83	83	
前年度比	+29	+33	+45	+46	+44	+49	
介護予防支援件数	38	37	36	36	33	35	
前年度比	+19	+18	+16	+16	+15	+15	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護支援件数	83	79	79	80	78	74	956
前年度比	+7	+5	-3	+5	+2	+2	+264
介護予防支援件数	34	34	34	34	33	33	417
前年度比	-3	-2	-4	-4	-6	-5	+75

(2) サービスの質

介護支援専門員は多岐に渡る支援が必要です。時にはご利用者ご家族のストレングスに目を向け、解決できるように導き、一方で解決すべき課題に優先順位をつけ、ひとつずつ丁寧に、より迅速に対応するように努めました。

また、独居・高齢者世帯等を事業所内で共通認識するように努め、ご利用の緊急事態に備え対応策や連絡方法について検討し確認することができました。

(3) 安定した収入の確保

事業所を統合し介護支援専門員を4人から3人体制にしたことで収入増、支出減にはなっていますが、定められた厳しい報酬体系の中で安定した収入の確保は厳しいのが現

状です。引続き、法令を順守したケマネジメントを実施する中で、習得可能な加算を算定していきます。

(4) 職員の資質向上

事業所会議や法人研修、南丹市のケアマネ連絡会等に参加し事業所を超えて学び合うことができました。また、2名が主任介護支援専門員の更新研修を受講し専門職としての学びを深めることができました。

(5) 地域貢献

認知症カフェの送迎や企画等の運営協力ができました。また、地域の美化活動として月1回施設周辺の清掃活動を行いました。

ご利用者は公的なサービスだけでは支援しきれず地域の方々に大変お世話になっています。今後も地域の方々と適宜必要な連携が図れるように努めます。

VIII. 地域密着型サービス

1. デイサービスセンター

(1) 利用実績 利用定員18名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	427	483	454	468	466	450	
1日平均	17.1	17.9	17.5	18.0	17.3	18.0	
稼働率(%)	94.9	99.4	97.0	100.0	95.9	100.0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	486	468	429	432	432	436	5431
1日平均	18.0	18.0	16.5	18.0	17.3	16.8	17.5
稼働率(%)	100.0	100.0	91.7	100.0	96.0	93.2	97.3

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
明治国際医療大学 看護学部	令和5年7月～9月	45名
明治国際医療大学 柔道整復学科	令和5年7月～9月	45名
明治国際医療大学 鍼灸学部	令和5年7月～9月	8名
佛教大学 看護学部	令和5年9月18日	1名
		99名

(3) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

ご利用者個々に合った介護計画の作成を心掛け、多職種連携で個別ケア（自立支援）の更なる充実を目標に、日々のサービスではご利用目的（入浴や他者との交流など）を職員間で共有し必要な支援を行いました。

また、日々のご利用者の声や、アンケートから届いたご意見から、上半期にトイレの改修工事（個室化）、下半期には、事業所の移動補助具等を、使用されている方に合ったタイプへの変更等を行い、ご利用時の満足度向上を図りました。

機能訓練（リハビリ）は、令和3年下半期の開始以降、ご利用者ご家族から高評価を得ており、はぎの里デイサービスの特色の一つとなりました。デイサービス事業での機能訓練という点を踏まえつつ、ご利用者個々の目標にあった沿った機能訓練の内容となるよう今後も検討を重ねます。

行事では、感染症の状況で判断しながら、外へ出る機会を作りました。春・秋のお花見外出として京丹波・亀岡方面へ、天候の良い時期に、近隣へドライブに出かけました。毎月の誕生日会は、今年度も外食は実施出来ませんでした。事業所内でケーキでお祝いをして、色紙と職員手作りのフォトフレームをお渡ししました。

家族交流会をオンライン開催し、画像を取り入れ事業報告とご利用中の様子を報告させて頂きました。また2ヶ月に1回、事業所独自の機関紙「輪（わっか）」を発行し、ご利用中の様子をご家族にお知らせしました。

次年度も、サービスの質の向上を図る為に、満足度の高いサービスは継続しながらも、誕生日外食等、外出行事の再開に向けた準備も行います。

(5) 安定した収入の確保

令和5年度も、感染症や台風の影響を受けるなど、営業日数が少なくなり稼働率が落ちた月がありましたが、毎日の利用人数調整（欠席や振り替え、ご希望による臨時利用の調整）が円滑に行えたことにより、年間実績は1日平均17.5名・稼働率97.3%と前年度を上回る実績となりました。その理由として、新規利用の相談はまず受け入れる方向で検討したこと、毎日継続して利用人数調整を行ったことがあげられます。

また、事業所独自で作成したパンフレット（随時更新）を関係機関やご利用に配布したことで、利用につながったケースもありました。

一方、支出ではトイレ改修で大きな支出がありました。

次年度も収入を確保し、収支を見た計画的な予算執行を行います。

(6) 職員の資質向上

職員の資質向上に向けての取り組みとしては、日々振り返りを行い、月単位でまとめ、職員会議で確認を行い、改善すべき点の再発防止に努めました。

毎月の職員会議では、年間の研修計画に基づき、担当職員が資料作成から当日の研修までを担当しました。その他感染症や事故防止など、他事業所と合同で開催し、必要な情報の共有と対応の統一化に努めた他、法人の研修担当部による認知研修、指導職研修、虐待防止研修にも参加しました。

施設外研修としてなんたん通所サービス部会に参加しました。

法人職員が誰でも受講可能なインターネット研修も活用しました。

(7) 地域貢献

運営推進会議を年2回開催しました。今年度は集合形式で開催したことで、写真を使ってより分かりやすく事業内容を説明することができました。

実習生の受け入れについては、明治国際医療大学から延べ99名の実習生を受け入れました。感染症対策の事前の取り決めに従い受け入れを行ったことにより、無事に実施することが出来ました。

ボランティアの受け入れは、今年度もありませんでした。

感染症の状況により、次年度も実習受け入れや地域の会議へ参加機会を確保したいと考えています。

2. ふれあいホーム

(1) 利用実績 登録定員12名(通い6名・泊まり3名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2

(2) 実習・その他受け入れ状況

なし

(3) ボランティア等受け入れ状況

名 称	活動内容	月 日	延べ人数
波多野錦綴織り工房（地域住民の方）	施設外周の掃除	毎月末	48人
			48人

(4) サービスの質

ご利用者やご家族の要望・ご意見をお聞きした時には、職員間のミーティングやオアシスとの合同会議の中で情報共有を行い、課題を把握して解決策を模索し、適切なサービスが提供できるように努めました。体調の変化についても、随時、ご家族に報告することができました。

事業所評価（外部評価）では、運営推進委員よりご意見を頂戴し、事業所の課題を把握することができました。業務の見直しや振り返りを行いながら改善に向け努めていきます。

少人数のご利用者のため、季節の行事やイベントなどはオアシスと合同で行いました。ご利用者にとっては交流の場となり、また外出の機会にもなるので大変喜んでおられました。日々のご利用時には、ご利用者の思いに沿った対応を行いました。

(5) 安定した収入の確保

現在、登録者2名となっています。地域への事業所周知としては、運営推進会議委員を通して興風・彰徳地域各戸にチラシを配布して頂きました。また、新規利用者獲得に向けては、地域包括支援センターや医療機関等に案内し、紹介につながるよう説明しました。

今後に向けては、さらに地域の皆様にふれあいホームの特徴やサービスなどを理解して頂くための案内を、ふれあいホーム玄関先だけでなく、バス停や地域の掲示板など活用することで、新規の利用につながるよう努めていきます

(6) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症予防に努めながら、可能な範囲で外部研修、法人の研修に参加するほか、インターネット研修も活用しました。具体的には、法定研修である小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修1名修了・介護支援専門員実務経験者更新研修1名修了・認知症介護基礎研修1名修了することができました。引き続き、職員個々の年間研修計画を立て、職員のスキル向上に向け行っていきます。

(7) 地域貢献

新型コロナウイルス感染症予防の為、ボランティアについては、事業所内に来て頂くことはできませんでした。毎月、施設外周辺の清掃をして頂くボランティアとのつながりとして、年2回の消防訓練と一緒に実施することと地域での防災意識の向上につなげるよう努めました。

また、夏には田原地域の夕涼み会に機材の提供や職員の要員応援で協力させて頂きました。今後も新型コロナウイルス感染症予防に努めながら、ご利用者と職員が一緒に参加できることを考えて取り組んでいきます。

3. 小規模多機能型居宅介護事業所はぎの里オアシス

(1) 利用実績 登録定員18名(通い8名・泊まり6名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	9	8	8	8	8	9	8	9	8	8	8	6

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
明治国際医療大学看護学部	7月12日13日19日20日	24名
		24名

(3) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

ご利用者やご家族の要望をお聞きして、臨機応変なサービスを提供することができました。

ご利用者のサービスとして、思いに沿った誕生日会や色紙のプレゼントをすることで、ご利用者のみならず、ご家族にも喜んで頂けました。また毎日の日課として、食事前の体操や嚥下体操、施設内歩行運動など下肢筋力向上や転倒予防のための取り組みとして、ご利用者やご家族に好評をいただいています。

事業所評価（外部評価）では、事業所の課題を把握し、運営推進会議で頂いたご意見やご要望を反映し業務改善に努めていきます。

(5) 安定した収入の確保

4月、9月には新規登録があり登録者9名となりましたが、入院やご逝去、施設入所などが相次ぎ、年度末には登録者6名の状態です。新規登録者確保に向け、地域包括支援センター、医療機関、居宅介護支援事業所などに声掛けを行い、10名の登録を目指して行きます。

経費面では、日々の細かい節約等を行い支出の削減に努めました。

(6) 職員の資質向上

職員のスキル向上に向けた取り組みとして、年間研修計画を立てインターネット研修により、職員個々に応じた研修を選択した視聴や会議内の勉強会でスキルアップ向上となるよう努めました。法定研修として、介護支援専門員実務経験者更新研修を1名が修了しました。

接遇面においては、ご利用者に対し配慮にかけた声掛けや対応などを見直すために、毎月、不適切ケアについて目標を設定し、会議内で結果を振り返ることで改善に向けた意識付けを行うことができました。

運営推進会議では、新しく委員となられた皆様のご意見や課題を頂戴し、資質向上に繋げ、より良い事業所となるよう取り組んで参ります。

(7) 地域貢献

地域でお困りごとのある方や認知症の方の相談窓口として、認知症安心サポート窓口の継続した登録と開設を行っています。

コロナ禍ではありましたが、感染症対策を講じながら、横田区代表者の方々やご利用者のご家族・行政担当で運営推進会議を開催することができました。会議ではスライドでの写真や動画など事業所の取り組みを知っていただくことができました。

横田区とのつながりでは、定期的な環境美化作業への参加や横田区の行事である秋祭りの神輿巡行やとんど祭りに室内から観覧し、ご利用者・職員共に大変、楽しいひと時を過ごすことができました。今後も可能な限り地域とのつながりや交流の機会を検討していきます。

4. 特別養護老人ホームはぎの里オアシス

(1) 利用実績

①長期入所定員20名（1ユニット10名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	19.1	19.7	19.7	19.9	17.9	16.6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	18.5	18.5	19.2	19.1	18.6	18.1	18.7

②長期入退所状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	1	3		7			2
退所先		4				9	

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
園部小学校2年生オンライン見学	9月21日	15人
園部小学校4年生オンライン交流 (オレンジガーデニングプロジェクト)	11月30日	30人
		45人

(3) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

施設サービス計画の実施状況を記録し、現状と照らし合わせて定期的に見直しを行いました。また、計画の内容に反映できるよう、ご利用者ご家族と積極的に関わりを持つように努めました。

新型コロナウイルス感染症が第5類の位置付けにはなりましたが、施設内では、外出や面会が自由にできない状況が続きました。その中でも個別ケアを意識し、楽しみのある生活の提供に向け、感染対策を実施しながらユニット合同で行事（花見ドライブ、敬老祝賀会、夏祭りなど）を開催しました。また各ユニットで、たこ焼きパーティーや小豆粥を炊く、巻き寿司をご利用者に巻いて頂く等、食を通して楽しみを持って頂く事もできました。対面面会を制限している期間は、タブレット（ご家族数組とご利用者をグループLINEで繋ぐ）や電話・メールを活用し情報提供に努めました。

事故防止の取り組みとしては、継続的にご利用者の生活環境や見守り方法、介護の方法の見直しを適宜行い、全職員への事故リスクを周知することで事故防止に努めました。

ご利用者・ご家族の想いに寄り添った看取り介護を行うために、ご利用者を知ることから始め、「看取りとなるまでのケアを見直す」という目標については、まだ課題がありますが、ご利用者を中心に考える視点に基づいて、アセスメントを行いました。よりご

利用者に添ったケア内容に適宜変更できるよう、ユニット職員間、多職種間での意見交換を継続し、看取りとなった場合にも繋がっていくように努めました。

(5) 安定した収入の確保

入退院、退所（ご逝去）が重なり8月、9月は稼働率が90%に届かない状態となりました。今年度の稼働率実績は93%と昨年より－1ポイントとなりましたが、空床期間の短縮化に努め、収入確保に向け効率的なベッドコントロールを行いました。

また介護業務の見直しを行い、人員が少ない中でも残業を減らせるよう努めました。排泄用品、日用品の使用頻度の再確認を行い、使用していない居室のこまめな節電など、コスト削減を意識した使用を心がけました。

今年度は、4月から協力歯科医院である河野歯科と連携し、口腔衛生管理加算取得、法人内職員で連携を取り、経口維持加算（Ⅱ）を算定することもできました。

(6) 職員の資質向上

年間研修計画（看取り介護、事故防止年2回、虐待防止・身体拘束廃止年2回、感染症対策、褥瘡予防、安全運転、摂食嚥下、食中毒予防等）に基づき施設内研修を実施しました。

研修内容を全職員に周知することの課題は残りましたが、ユニット間、部署間での共有、指導においては次年度においても引き続き周知できるように取り組みます。

(7) 地域貢献

運営推進会議の開催方法は、コロナ禍ではありましたが、感染症対策を講じながら対面会議とし、横田区各団体の代表者やご利用者のご家族・行政担当者の集合により開催することができました。会議ではスライドでの写真や動画により事業所の取り組み等を知っていただくことができ、スライドを見ながら意見を下さる委員の方もありました。

今後は、施設内の見学をしていただくことも検討していきたいと思えます。

また横田地区の美化清掃等に職員が参加し、交流もさせていただきました。横田区運動会やとんどでは、ご利用者に施設内から見学して頂き、とても喜んでおられました。今年度も地域の方が自由に施設内を出入りしていただくことは難しい感染状況でしたが、今後も可能な限り地域とのつながりや交流の機会を模索していきたいと思えます。

5. 認知症対応型共同生活介護事業所はぎの里オアシス

(1) 利用実績

①入居定員18名（1ユニット9名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	16.5	15.8	16.6	18.0	17.5	16.6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(月平均)
月平均入所者数	18.0	17.0	15.0	14.1	15.5	15.6	16.4

②入退居状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	1	2		2			
退所先			3	1		1	

(2) 実習・その他受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(3) ボランティア等受け入れ状況

感染症予防対策のため、受け入れはありませんでした。

(4) サービスの質

昨年度に引き続き、感染予防対策により外出やボランティアの受け入れ等に制限がありましたが、少しでも季節感を味わっていただける行事や雰囲気づくりに努めました。花見ドライブでは、他の花見客との接触を無くし、車内の換気や消毒を徹底したうえで実施しました。夏には夏祭りをを行い、ご利用者に法被を着ていただき、スイカ割りや屋台の雰囲気を感じていただけるよう工夫し夏祭りらしい雰囲気を楽しんでいただきました。秋にはベランダで焼き芋づくりを計画し味わっていただきました。又紅葉ドライブでは馴染みの地域をまわりながらのドライブとし季節を感じていただき気分転換ができたこと喜んでいただきました。新年元日には当日誕生者のお祝いと新年のお祝いをユニット合同で行い、にぎやかな一時を過ごすことができました。あたたかい日には若宮神社へと初詣に出かけました。2月節分行事には、巻き寿司巻きを一緒にしていただき美味しいと喜んでいただき、豆まきで厄を払いました。3月にはひな飾りの前で記念撮影をしました。

面会についても引き続き感染予防対策のため、1階ロビーでの時間制限がある中となり、ご家族より以前のように3階に上がり居室での面会をと希望される意見が聞かれました。

面会制限がある中でご利用者の様子を伝えることが難しいため、グループホーム新聞に担当職員より普段の様子を記入してお知らせしました。また定期的な電話連絡にて施設での様子が伝わるように努めました。

(5) 安定した収入の確保

上半期は、3名のご利用者の入院、特養入所による退居が重なりましたが、新規入居2名があり稼働率は安定していきました。

下半期は、3名のご利用者が入院・退院を繰り返され、1名のご利用者は病院にて逝去されました。老健入所による退居、薬剤調整の長期入院、2名のご利用者(骨折・肺炎)は、入院中病院でのコロナ感染のため長期入院となりました。入院により大きく稼働率が低下したことで、減収となりました。

業務の中では職員個々が節電意識を持って取り組み、また物品購入に関しても工夫し経費削減に取り組みました。

今後も状態の安定と稼働率を上げるために普段よりご利用者の体調の変化を観察し、早期の受診に結び付けることで、入院が長期化しないように努めます。

空床期間を短縮するためには、各種関係機関への働きかけを積極的に行うことで入居待機者の確保に努めます。

(6) 職員の資質向上

新規採用職員への指導、各職員への面談等を中心に資質向上に努めました。個々の職員の得意分野を伸ばせる業務体制を整え、働きやすい環境づくりに努めます。

職員会議内では、現状課題と考えられる内容を取り上げインターネット研修を実施しました。またインターネット研修は全職員視聴・レポート提出とし日々の介護を振り返る機会をつくることを意識し取り組みました。

法人研修・オアシス全体研修会では年間研修計画に基づき実施しました。課題としては、研修受講後の他の職員への伝達が不足していることで、学んだ知識技術をサービスに繋げることの難しさがありました。

他研修として、法定研修(認知症介護基礎研修)の確実な修了や資格研修である認知症介護実践者研修の修了者もあり、現場での実習が認知症ケアに役立つよう取り組みました。

(7) 地域貢献

地域活動の参加は感染予防対策のため行事等の参加は難しく、横田区のご厚意で神輿やとんど祭りを施設内から見学させていただき、ご利用者に喜んでいただきました。

運営推進会議では、施設内の見学をしていただくことができず、スライドでご利用者の普段の生活の様子や行事等事業所の取り組みをお伝えすることができました。

今後も地域とのつながりを大切に、可能な限り地域活動に参加できるよう努めます。